

# 有害性評価小検討会・発がん性評価ワーキンググループでの検討状況

参考資料6

## 【平成26年度発がん性評価ワーキンググループの検討実績】

平成26年度第2回発がん性WGでの検討  
(平成26年7月10日)

化審法スクリーニング評価で発がん性クラス1又は2のものを整理・提出(10物質案を確認)  
→7/14企画検討会で、このうち2物質をリスク評価対象物質として選定(チオ尿素、イソホロン)。(他の18物質も選定され、これら20物質については26年12月にばく露作業報告対象物質として告示済み→28年3月の事業者からの報告を受けて、リスク評価を実施)

既存の発がん性情報を活用した発がん性評価について  
①「専門家による発がん性評価の基本的な考え方」を提示  
②①に基づき、平成25年度の文献調査の結果の中から、WGでの評価対象となる125物質のリストを提示  
③125物質の中から5物質を選び、1~2Bに該当するかを検討(試行的な評価)

平成26年度第1回発がん性WGでの検討  
(平成26年5月14日)

化審法スクリーニング評価で発がん性クラス1又は2のものを整理・提出  
既存の発がん性情報を活用した発がん性評価の進め方について検討

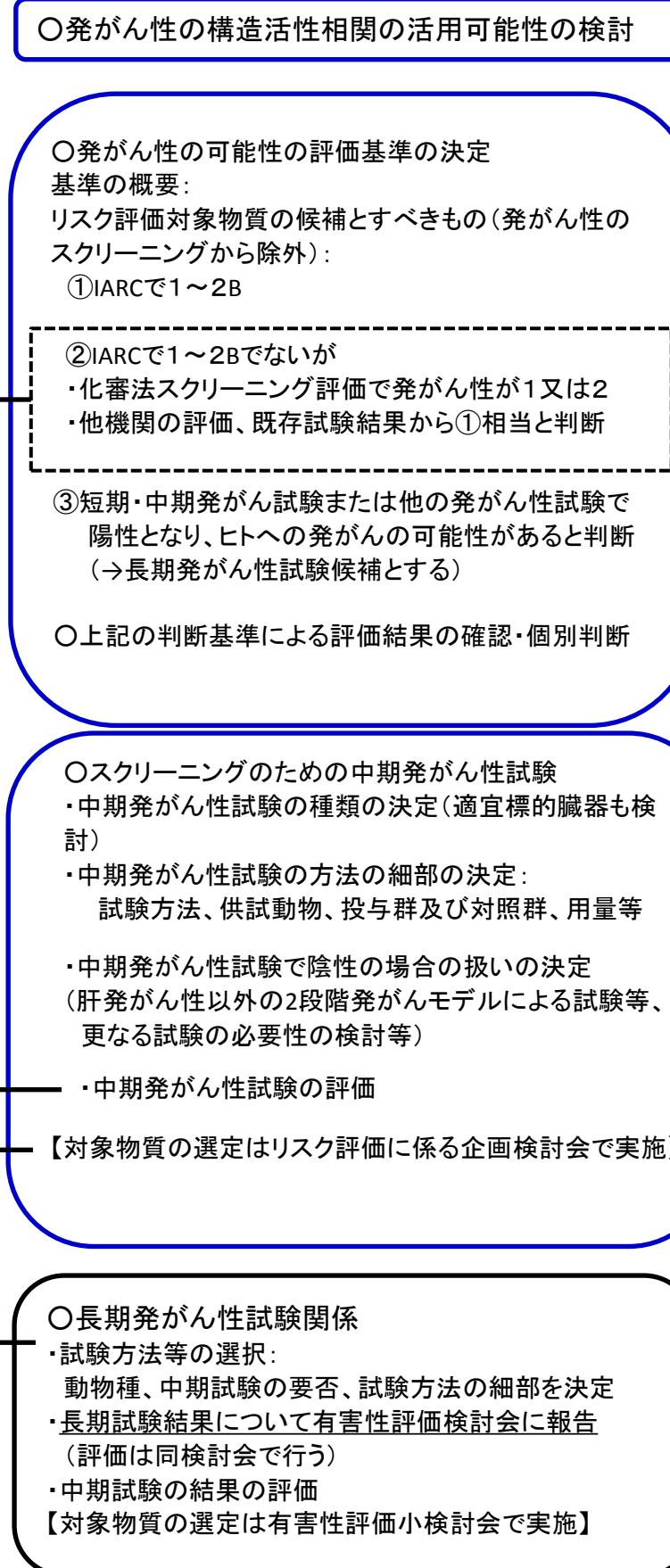
中期発がん性試験の結果の評価基準を検討:  
・陽性の判断基準  
・指針の要否の判断基準(陽性で発出ししない場合の判断基準 (P))  
・リスク評価の要否の判断基準

25年度中期発がん性試験の結果の評価  
(2-ビニルビリジン、1,3-ジブロモプロパン)  
→ともに陰性

26. 3. 5開催の企画検討会で選定された中期発がん試験対象の8物質(候補6、次候補2)を検討し、候補の6物質を決定

- 第3回WG(26. 2. 4)
- 第4回WG(26. 3. 5)
- 上記125物質中56物質についての発がん性評価  
(IARC 1~2B相当かどうかの検討)
- その他: 遺伝子改変マウスの試験基準の検討

## 【発がん性WGの検討事項】



## 【職場で使用される化学物質の発がん性評価の加速化】

